

リニアは中止に 党県委がキャラバン開始

**守ろう!
 命の水**

しまづ幸広前衆院議員（比）例東海、静岡1区重複候補）は9日、10日、リニア工事による大井川の水量減少で深刻な影響を受ける流域各市を回り、市長らと懇談、街頭宣伝しました。党静岡県委員会リニア対策委員会が流域8市2町を回る「リニアキャラバン」として市長らとの懇談や街頭宣伝を行います。

9日は菊川市、掛川市で、松井三郎掛川市長、旧小笠町（現菊川市）の黒田淳之助元町長、J町長、A掛川市の松永大悟組合長らと懇談し、両市で街頭宣伝しました。

松井市長は「市は上水道の9割を大井川に頼っている。今と同じよう、水を守りたい」と語りました。黒田氏は「この地域は水で苦労してきた。末端の意見を大事にしてほしい」。松永氏は「市内の茶畑130畝は大井川の水に頼っている。リニアの建設は否定しないが、共生していくことが大事だ」と語りました。

島津氏は「水は何物にも代えられない。一点で共同し、党としてはリニア中止のため全力をあげたい」と述べました。掛川市の勝川志保子市議、菊川市の横山隆一市議も同行しました。



松井市長（右）と島津氏（左）

10日は、もとむら伸子衆院議員、鈴木ちか静岡2区候補、御前崎市の清水澄夫前市議、牧之原市の藤野守市議と御前崎市商工会の河原崎健司会長、牧之原市の茶農家と懇談しました。

河原崎氏は「水が無くなる



事は深刻な問題で住民が納得した方向で議論する事が必要だ。特に農業にとって水が無くなる事は死活問題」と強調しました。

新型コロナ 保健所職員と懇談

もとむら、しまづ氏、名古屋市長と名古屋市



もとむら伸子衆院議員、しまづ幸広前衆院議員は6日、名古屋市内の保健センターの職員と懇談し、PCR検査体制や陽性者受け入れの実態などを聞きました。すやま初美党

は2018年から1保健所16支所体制となり、感染症対策は保健センターで保健師が、濃厚接触者を特定する行動調査、PCR検査の手配、陽性者の健康観察などを行っています。

保健師らは、過労死ラインを超過100時間超の残業をする職員が出ていたり、人手不足で調査が遅れていることを報告、行動調査や自宅療養者への行動観察を、検査などの通常業務と並行して行っていることなどを紹介し、「非常に時に十分動ける保健師、膨大な書類をつくる事務員の増員が必要」と話しました。

大規模な検体採取については「保

健センターの業務と切り離して実施すれば保健所は疫学調査に専念できる」と指摘。他に、▼換気などの事業所調査が電話での聞き取りだけになり感染防止対策は徹底されていない▼入院病床がひっ迫し陽性者を受け入れる場所がない▼障害者や高齢者が陽性でも入院できずに自宅待機になった場合の対応などの問題があげられました。

もとむら氏は「国が保健所、保健師、病床を削減してきた問題がある。国の責任でPCR検査の徹底、正規の保健所職員や医療従事者を抜本的に増やすことを求めていく」と述べました。

- ▼演説会 ◆12月12日(土) 〇14:00 沼津市民文化センター 小ホール 田村智子副委員長 もとむら伸子衆院議員 〇18:30 ラ・ホール富士 もとむら伸子衆院議員 ◆13日(日) 14:00 半田市・アイプラザ半田 小ホール たけだ良介参院議員 ◆20日(日) 13:30 松阪市産業振興センターホール 高橋千鶴子衆院議員 もとむら伸子衆院議員、しまづ幸広前衆院議員
- ▼市民集会 13日(日) 14:00 市民と野党の共闘をすすめるオール4区可茂地区集会(岐阜) 可児市福祉センターホール もとむら伸子衆院議員が参加

12月21日(月)はブロックいっせい宣伝です